

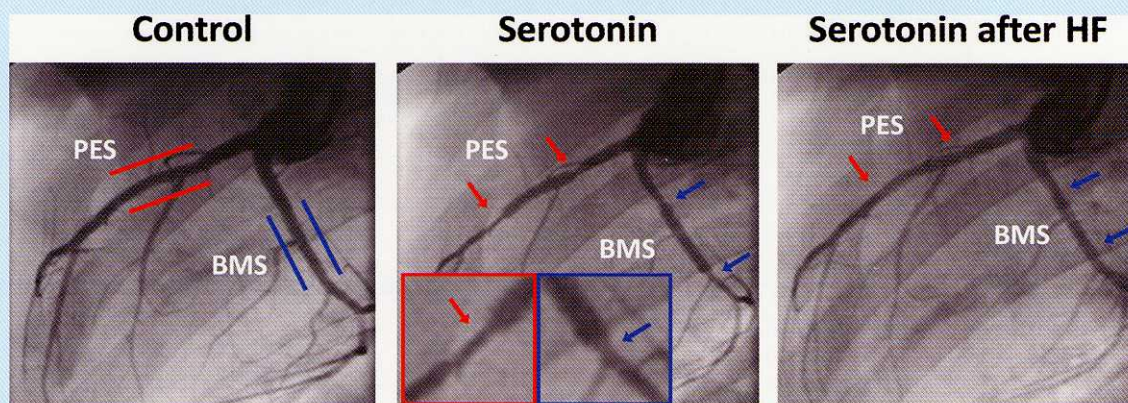


東北大学大学院医学系研究科循環器病態学

同上 循環器先端医療開発学寄附講座

同上 循環器EBM開発学寄附講座

東北大学病院 循環器内科



目 次

ご挨拶	1
教室活動総括	3
教室構成・関連病院	5
新入局員紹介	12
循環器先端医療開発学寄附講座	16
循環器 EBM 開発学寄附講座	18
診療実績	
入院患者数とその内訳	25
外来診療実績	28
年間診療実績	29
虚血グループ報告	30
循環グループ報告	32
不整脈グループ報告	35
CCU 報告	37
症例カンファランス	38
病棟での活動報告	40
教室広報誌「Heart」(第 13～16 号)	41
研究業績	
教室の業績	51
受賞報告	86
研究費実績	88
学位(医学博士)取得者	90
星陵循環器懇話会	91
留学生近況報告	95
主催学会	
10th International Symposium on Mechanisms of Vasodilatation	99
教育実績	
学部・初期臨床研修医教育	107
臨床抄読会	109
仙台心臓血管研究会	114
学内リサーチセミナー	115
Work in Progress	115
社会活動実績	
東北大学病院循環器生涯教育講座	119
心電図・心エコー勉強会	121

新聞・テレビ・ラジオ報道	
新聞・テレビ・ラジオ報道	125
厚生労働省班研究	128
教室行事	133
同門会	
東北大学循環器内科同門会設立にあたって	167
関連病院近況報告	171
関連病院業績	183

ご 挨拶

平成 21 年度の当科（医学系研究科循環器病態学分野および 2 つの寄附講座，大学病院循環器内科）の年報をご送付申し上げます。平成 21 年度も教室として充実した 1 年でした。当科に対しまして暖かいご支援やご助言をいただきました多くの皆様に深く感謝申し上げます。

臨床研究に関しましては、当科で実施している多くの研究が引き続き大きく発展いたしました。日本人の心不全におけるエビデンスを確立すべく 23 関連病院と行っております「CHART-2 研究」（連続 1 万名の Stage B-D の患者登録と観察研究）と「SUPPORT 研究」（高血圧を基盤とした Stage C-D の心不全患者 1,000 名に対する ARB の無作為介入研究）において順調に症例登録が進行し、それぞれ、10,000 名、1,100 名以上を登録することができ、登録は無事終了いたしました。今後、追跡期間に入っていきます。また、慢性心不全におけるメタボリックシンドロームの意義について解明する厚生労働省の班研究「生活習慣病における一次予防のための運動基準策定を目的とした大規模介入研究」（平成 20～22 年度，全国 5 施設が参加）が新たに採択されました。さらに、冠攣縮研究会（全国 66 施設が参加）で登録された 1,500 例の解析が進行し、現在論文作成中です。また、長年研究してきました選択的 Rho-kinase 阻害薬 fasudil を用いた肺高血圧症に対する世界初の臨床治験を継続実施しました。さらに、嬉しいことに、長年かけて開発してきました低出力体外衝撃波治療が厚生労働省のスーパー特区拠点形成事業（平成 21-23 年度）に採択されました。今後、東北大学病院の診療他科と連携しながら、本治療法の適応拡大を目指していきたいと思います。

基礎研究では、厚生労働科研費研究として、現行の高周波アブレーション治療の限界（心外膜病変，血栓形成）を克服する「衝撃波アブレーション治療」の開発（平成 20-22 年度）を継続実施しました。また、「第 10 回血管拡張機序に関する国際シンポジウム」（平成 21 年 6 月 1～3 日）を主催し、海外から約 100 名，国内から約 200 名の血管生物学研究者の参加があり、大変充実した国際会議となりました。

臨床では、平成 21 年度は、虚血・循環・不整脈の診療 3 グループの診療実績がさらに伸びた一年でした。2009 年（1～12 月）の実績として、心臓カテーテルの総件数は 1,046 件と大幅に増加し、特に冠動脈インターベンションは 274 件に増加しました。不整脈治療も、高周波アブレーション 108 件，植え込み型除細動器 33 件，心臓再同期療法 29 件と順調に増加しました。また、肺血栓塞栓性肺高血圧症に対する肺動脈形成術も開始し、良好な成績が得られつつあります。心臓移植や肺移植の適応になる重症心不全患者や重症肺高血圧患者の治療も多数例行いました。

教育では、卒前の学部教育・卒後の臨床研修教育・大学院教育の広い範囲で、教室のスタッフ全員で積極的な教育活動を行い、学生・研修医から高い評価を得ました。また、例年通り、4 月～7 月に計 12 回の「心電図勉強会」を開催し、多くの参加者がありました。

社会貢献としましては、例年通り、毎月 1 回「東北大学病院循環器生涯教育講座」を開講し、地域医療関係者への教育活動を行うと共に、3 ヶ月毎に教室の広報誌「Heart」を発刊し、教室発の最新情報の発信に努めました。

平成 22 年度も、わが国および世界の循環器医療・医学の発展のために、教室員が一致協力して、研究・診療・教育・社会貢献を行っております。

今後とも、ご支援・ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

平成 22 年 7 月吉日

東北大学大学院医学系研究科循環器病態学分野
同 上 循環器先端医療開発学寄附講座
同 上 循環器 EBM 開発学寄附講座
東北大学病院循環器内科

下川宏明

教室活動総括（2009年4月～2010年3月）

平成21年度は、下川宏明教授が着任され5年目を迎えたが、ますます順調に診療・研究・教育で業績を伸ばした。

診療面では、虚血・循環・不整脈の各診療グループが、これまで通り、先進的診療を臨床研究や学生・研修医教育と並行して遂行した。近年、心臓カテーテル検査・治療の総件数は増加の一途であったが、ついに1,046件となった（2009年1月～12月）。虚血性心臓病に対する低出力体外衝撃波治療は勿論、OCT導入によって高度な冠動脈インターベンション治療にも対応している。肺動脈性肺高血圧症に対する先進的薬物治療の治験に加えて、肺動脈血栓塞栓症に対する肺動脈形成術も開始して良好な成績を残した。不整脈領域においては、東北地方でも有数の不整脈アブレーション施行施設に成長しており、難治性心房細動・心室頻拍に対する高周波心筋焼却術なども順調に症例を重ねている。ICDやCRT-P/D治療も増加中であり、年間60例以上の症例数を維持している。平均病床稼働率は約110%に達し、平成22年度の稼働額は大学病院の全診療科中第1位の成績であった。循環器内科は、名実ともに東北大学病院を代表する臨床科に成長したと考えられる。

研究面では、各研究グループが今年も多く国内外の学会でその成果を発表し、欧米の一流誌に論文が掲載された。関連病院の先生方の多大なご協力を得て進行中であるCHART-2研究およびSUPPORT試験も順調に登録数を伸ばし、この3月末日をもって登録期間終了となった。2013年末には追跡結果の報告をする予定である。また、冠攣縮研究会では、日本最大の冠攣縮性狭心症患者レジストリー（N=1,521）が完成し多くの知見を発表した。メタボリックシンドロームに関する多施設共同厚生労働省班研究「慢性心不全におけるメタボリックシンドロームの意義に関する研究」は順調に進行しており、現在は「わが国の生活習慣病における一次予防のための運動基準策定を目的とした大規模介入研究」として継続中である。今年も多く受賞があった。佐藤公雄が、日本循環器学会YIA・国際心臓研究学会YIA・アメリカ心臓協会YIA・日本血管生物医学学会YIAなどを、また、珠蘭其其格が日本循環器学会学会誌最優秀論文賞・平成21年度東北医学会奨学賞・東北大学藤野先生記念奨励賞を受賞した。教育面では、東北大学病院心電図・心エコー勉強会と東北大学病院循環器生涯教育講演会を開催し、大変好評であった。心電図・心エコー勉強会では、医学部学生・研修医・看護師ら延べ2,227名が、生涯教育講座には、延べ646名の参加があった。

医学部教育では、従来通りの屋根瓦方式による臨床教育を行って学生や医学教育センターから高い評価を得た。当科では高次臨床修練の一環として、メイヨークリニックやカリフォルニア大学サンフランシスコ校などへの短期見学を奨励しており、昨年度は4名が参加して大変好評であった。

医局員の移動では、荻部明彦先生が4月から宮城大学の准教授に就任し、福井重文先生が4月から岩手県立中央病院へ異動した。4月からの新入局員は8名で、うち5名が大学院生として教室のメンバーに加わった（2名は社会人入学）。現在留学中であるのは、浅海泰栄（米国ボストン大学）、藤田 央（米国ロングアイランド大学病院）、白戸 崇（米国Brigham and Women's Hospital）である。

（文責 柴 信行）